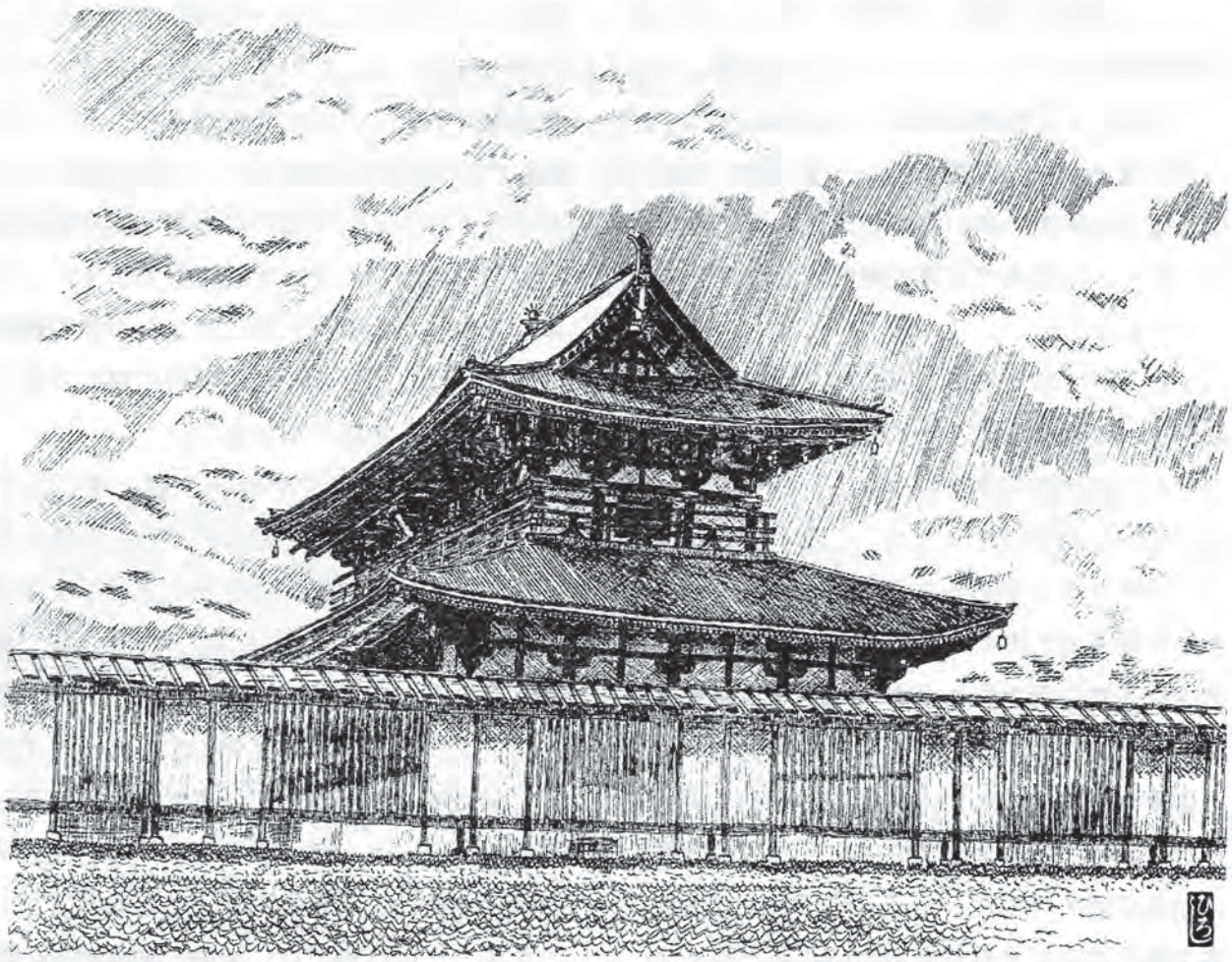
ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行２０１１年１０月１日
１０月号　第１１７号
奈良・人と自然の会
会長　阿部和生



＊　特別寄稿「奈良のニッポンバラタナゴを・・・」　1
＊　リレー随筆「お元気ですか」　2
＊　速報！国土緑化推進機構会長賞受賞・「・・・を忘れて」　3
＊　イベント「竹切りと自然工作」・「佐保台小の昆虫観察会」　4
＊　ならやま＜レポート・自然観察＞・癒しの散歩道　5～7
＊　跳躍チャンピオン「昆虫講座」⑫・「自然をいただきま～す」　9～10
＊　自然俳句・とりシリーズ・地域情報　11～12
＊　10~12月行事案内・・「一泊研修会」「曽爾高原」「京都植物園」　14～14
＊　今月の表紙・ペン画によせて　16～17

[特別寄稿]

奈良のニッポンバラタナゴを奈良の里山へ

近畿大学農学部　北川忠生

ニッポンバラタナゴは、小型のコイ科魚類の日本固有亜種で、かつては琵琶湖以西の地域に広く生息していたとされています。しかし、近年では生息環境の悪化、中国から持ち込まれた近縁亜種のタイリクバラタナゴとの交雑、によって激減し、生息地域はごく一部が残されているに過ぎません。環境省版レッドリストにおいても最も危険度の高い絶滅危惧 IA 類に指定されており、奈良県では既に絶滅したと考えられていました。

ところが、私たちが 2005 年に行った調査において、県内のある 1 つの池からニッポンバラタナゴの個体群の生息が確認されたのです。詳細な DNA 分析によっても、これが純粋なニッポンバラタナゴであること、独自の遺伝子構成を持つ在来のものであることが確認されました。希少な生物の新たな生息場所が新たに発見されたことも驚きでしたが、その池の場所にそれ以上の驚きがありました。世界中から多くの観光客が訪れる、奈良公園の中にあったからです。

奈良公園のニッポンバラタナゴの生息池は、本亜種の現在の自然分布の東限にあたります。また文化的にみても、日本で最も人の活動が長く続いてきた奈良の地で、象徴的な場所に生き残っていたこの地域固有の個体群を絶滅させるわけにはいきません。私たちは、行政や管理者の理解と協力により特別な許可を受け、2007 年から本格的な調査・保護活動を実施しています。調査の結果、この個体群がきわめて危険な状況にあること明らかとなってきました。本来は水深 1m 程度の池が、池底には 50cm 以上の大量のヘドロが堆積し、夏場には水が干上がる場所もあります。夏場の、水温の上昇や酸欠により、ニッポンバラタナゴの産卵床となる淡水性二枚貝のドブガイ類が大量に死滅しているのです。調査を開始した時から、すでにこの池の環境改善だけでは成り立たない危機的状況にあることは明らかでした。さらに、この池でメダカの流通品種であるヒメダカや金魚までもがこの池で発見されはじめています。このままでは、いつタイリクバラタナゴなどの有害な外来生物が侵入してもおかしくない状況にあります。この個体群を絶滅から救うためには、この池の環境保全だけでなく、一部を別の場所に移して早く危険分散を行う必要があります。

我々は、生息地での保全活動と並行して、2007 年より採取した個体の一部を近畿大学に持ち帰り、学内の研究施設内に造成した素堀の系統保存池で繁殖に取り組んでいます。現在我々は、奈良市内の小学校にビオトープで繁殖したタナゴを里親として育ててもらう「里親プロジェクト」を実施しています。出前授業、観察会を行い、ニッポンバラタナゴの存在とその保護の必要性を子供達に教える活動も実施しています。この活動では、地域の拠点となる学校にその拠点を担ってもらうことで、少しでも関心を持ってもらう目的も持っています。また、地域のみなさまに、貴重な生物が生き残っていたことを知ってもらうこと、それを守るにはどうすればいいかを考えるきっかけになればと考えています。

しかし、この個体群を永続させるためには、限られた施設内の系統保存池や学校のビオトープだけではなく、出来るだけ広い場所で、本来の生息地に近い多様な環境に、新たな恒久的生息地の創出を行うことが不可欠となっています。

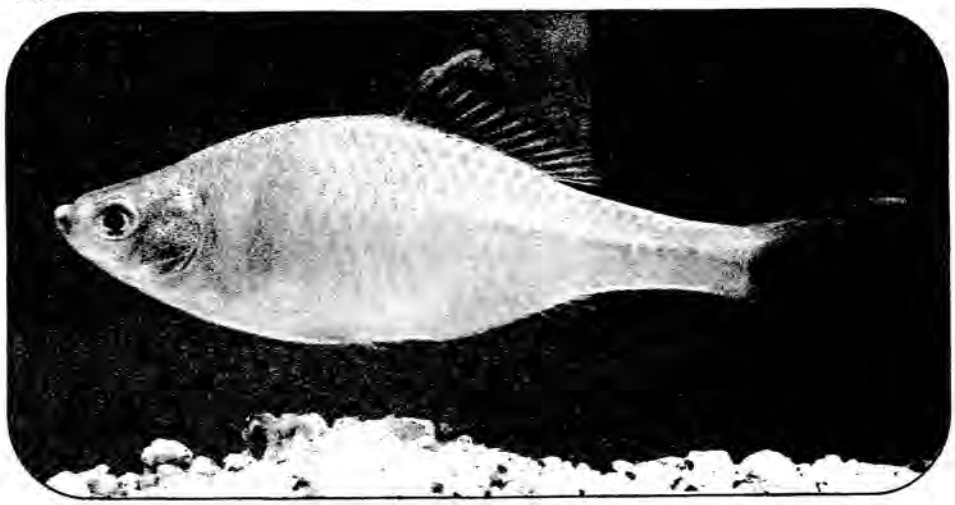
生物の移殖・放流はリスクを伴う作業です。しかし、ニッポンバラタナゴの場合、ヒトが壊した生息環境を取り戻すために、ヒトの手が必要な段階にまで至っていることは明らかです。本来、存在するべき生物について、適切な方法に基づいて再度その生息場所を人為的に造成する作業を「保全的導入」といいます。保全的導入は、生態系へのリスクが低い場所、成功の可能性が高い場所、その後の継続的な生息が見込める場所で行う必要があります。ならやまベースキャンプのビオトープ池を拝見し、また、お話しをお伺いしたとき、奈良の地でヒトと自然が共存する里山環境に感動し、まさにここが新たなニッポンバラタナゴの生息場所になりうると確信しました。ニッポンバラタナゴ達が、もっともよろこぶ住みやすい環境であると感じました。そこで、この池を新たなニッポンバラタナゴの恒久的な生息地とする取り組みを貴会に提案させて頂きました。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。

ならやまニッポンバラタナゴは、雨が少なくため池の多いこの地域で、ため池をすみかとして長い間ヒトと共存してきたいきものです。この地域における持続可能な環境や社会の指標として、ニッポンバラタナゴは象徴的な存在となるのではないかと考えています。この取り組みには、様々な予想外のトラブルがつきもので、予定通りにはなかなか行かないと思います。経験豊かなみなさまのお知恵をお借りしながら、新たなニッポンバラタナゴ生息地の創出にご協力頂けますよう、心よりお願い申し上げます。

＊北川　忠生氏
近畿大学農学部環境管理学科講師　博士学術
愛知県出身、2003年より近畿大学に赴任、奈良に住みはじめ8年目です。
専門は、淡水魚を対象とした遺伝学で、日本列島のドジョウの仲間の起源の解明の研究で博士号を取得しました。様々な在来淡水魚のほか、外来種であるオオクチバスの問題や、　メダカの流通品種であるヒメダカによる遺伝子汚染の問題にも取り組んでいます。分担著書に、「淡水魚類地理の自然史」北海道大学出版会があります。

[写真の説明]

奈良県産ニッポンバラタナゴの雄
（近畿大学　森宗智彦氏撮影）
体長約5㎝



リレー随筆　お元気ですか！

「大 和 伝 統 野 菜」

樋口　善雄

「戦前から奈良県内で生産が確認されている品目」と案内を受けた。　地域の歴史　文化を受け継いだ独特の 栽培方法等により、味・香り・形態・来歴等に特徴を持つものと定義している。　そう言えば他県では　天王寺かぶら・門真れんこん・吹田慈姑・聖護院大根・都タカノツメ等が顔を並べる。

奈良県では，水産農林振興課から入手の資料によれば種子から育てる野菜Ｘ１０種類。　根隗菜Ｘ３種類で更に「大和のこだわり野菜」で24種類に細分している。

なら山プロジェクトでの栽培は，『水菜』からスタートを切り、次いでひもトウガラシ・紫トウガラシ・大和薯，などに手を染めて行ったルーツは，メンバー諸兄子の御高承通りである。最たる作物は　『黒米稲作』であることは，言を俟たない。　近年は大和マナ，祝い大根，チュラ冬瓜，三池高菜等他県の伝統品にも手を染めているが，シニア世代の安心安全を願った『無農薬、有機栽培』を実施すると，栽培には数倍の労が必要である。

此の欄では紙数に制限あり　これ等の栽培に関し諸々の面白い栽培挿話を紹介出来ないが，近々に号を改め、諸兄姉にご報告すべく草稿を温めておきましょう。

コブシの実

孫からの緊急出動要請

川勝　孝雄

私には孫が小５，４歳、２歳の３人います
私の住まいより３０分～１時間の距離に住んでいる娘の子供です。

朝の登校、登園の時間に体調不良時は病院に駆けつける緊急要請がジジ・ババの我が家に連絡が入ってきます。

また登校・登園していても体調が悪いと引き取りにきてほしいと連絡が来ます。

この時は体調が悪いので引き取ると同時に小児科病院にかけこむことになります。特に休診日の対応には大変苦戦しています。

小児科に通院していると大変多くの小児が毎回来ていることが実感出来ます。

我が子の時は妻に育児のすべてを任せきりでしたが、現在は夫婦か、夫だけで小児を連れてきているのを見ると、時代が変わったと感じる今日この頃です。

速報！

国土緑化推進機構会長賞　受賞決定

（社団法人）国土緑化推進機構の「平成23年度ふれあいの森づくり」部門で、奈良・人と自然の会が会長賞を受賞することに決定した旨、奈良県庁より連絡がありました。

全国46都道府県より推薦された中から、中央選考委員会で審査し4団体が選ばれたもので、**来る11月20日の全国育樹祭の場で、会長である衆議院議長の感謝状が授与されますことになっています。**

当会の創立１０周年の記念すべき節目の年に、このように素晴らしい賞を頂くことは大変意義深いものであり、この栄誉を力に、我々の活動の輪がさらに広がるよう、お互いに努力していきたいと思います。

会長　　阿部　和生

「・・・・を忘れて」

竹本　雅昭

ビヤグラス：ここは京都府相楽郡にある「レイクフォレストホテル」のテラス。眼下にはゴルフ場、その向こうは山の垣根がずーと続く。やってきましたよ。全員白髪交じりの元気なおじさん達が、我等ビール係１８器がお出迎えだ。

七輪：久し振りの接待だ。おやおや始まったばかりなのに、一台が調子悪く交替させられたよ。今日は燻っても真横に吹き飛ばされて、煙と臭いの演出が出来ないのが残念だよ。

ビヤグラス：この前はステキな娘さんばかりでスマートな飲みっぷりに気分よかったけど、今日はビールだけではないぞ！

タンブラー：見なよ、日本酒・焼酎・リキュールの銘酒を並べて、オンザロックでグイグイだ。流石にのむならの会？じゃなかった。ホロ酔いとなって「森や谷川のある自然の未来」「これからの国のあり方」等々真面目な方々ばかり。

七輪：おやおや、呑んだら話に夢中で黒焦げだ。あれ！あれ！このウィンナーはうちのと違うぞ、かなり上等のようだ。“これは旨い”と頬張ってる。まあいいっか俺は黙って焼いてりゃいいんだ。

タンブラー：もう瓶底に少ししか残ってないよ。まあ野良仕事で疲れてのガソリン補給てとこか。後は温泉やカラオケでゆっくりしていって。

～８月のらの会より～

山と森林の月間　協賛イベント

「竹切りと自然工作」実施報告

８月２８日（日）晴れ、前日の大雨警報がウソのような天気である。７月３０日（土）の「ならやまの昆虫観察会」に続いて、イベント「竹切りと自然工作」を実施した。

当日キャンセルもあったが、子供１７名、保護者６名の参加があった。

午前中は遊びの森で、木登りや、ブランコ、ロープ渡り、木を切ったりして里山の遊びを楽しんでもらった。初回のロープ渡りの真剣な眼差しと達成感。２回目の自信。こうして子供は成長する。

昼食後、１２時４０分頃から、バウムクーヘンを子供たちが中心になって焼いてもらった。
顔を真っ赤にして、熱さに耐え、だんだんと太くなるバウムクーヘンを楽しみに、クルクルと回し、同時に４本を焼く。１時間はたっぷりかかる。
辛抱強く焼く子供、焼くことに飽きて、野原を走り回って遊ぶ子、いろいろな個性が現れてなかなか面白い。

焼きあがったバウムクーヘンを竹から切り離して参加者全員で試食する。子供たちの嬉しそうな顔、顔、顔・・・・

続いて、竹で水鉄砲を作り、的に目がけて水を飛ばして遊ぶ。よく飛ばす子、手前に水が噴き出る子いろいろあって興味は尽きない。

あっという間に時間がたって、終わるのが心残りな子供や保護者たち。皆さんお疲れ様でした！

（藤田　記）

イベント「佐保台小学校の昆虫観察会」

自然教室チーム

9月7日、佐保台小学校において校庭の昆虫観察会を行いました。天気に恵まれ、虫もいっぱいで、虫網を振り回す子供たちの元気な声とバッタやトンボの悲鳴とともに無事終了しました。昆虫博士の木村さん、菊川さんが中心となり、当会の自然教室チームから6名の応援（市川、倉田、塩本、橋木、林、平岡、）のもとに楽しいひと時を過ごしました。

第1部は校庭の草むらでの昆虫採集と観察、第2部は室内でせみの抜け殻観察を行いました。参加した子供たちは1年生～3年生が主体で、4年生と5年生は僅かでした。しかし参加者は45人と多かったため、各学年が入り混じった7～8人を一グループとして6つの

班に分け、自然観察チームのメンバーが各班一人ずつついて指導を行いました。

第1部の昆虫採集は、1～3班をまとめて菊川さん、4～6班をまとめて木村さんが担当し、互いに反対方向にぐるっと校庭内を一回りし、途中で交差するようにしました。

子供たちはめいめい虫網を与えられ、リーダーが「さあ虫取りを始めましょう」というが早いが一斉に草むらに分け入り、虫の追い出しにかかりました。昼にご馳走をたらふく食べ、昼寝をむさぼっていたバッタたちはさぞ驚いたことでしょう。右に逃げても左に逃げても虫網を持った子供たちがわっと押しかけてきて、有無を言わさず御用ですので。

女の子も男の子に負けずにがんばって虫を追い掛け回していました。しかし虫網をかぶせてバッタを捕まえたものの、虫かごに入れることが出来ずにスタッフの手を煩わせていた子もいましたが、周りの子供たちが虫を手でつまんで虫かごに入れているのを見たせいか、終わる頃には手でつかむことが出来るようになっていました。大きなバッタを捕らえて「うちの班の虫かごは何処？何処？」と大騒ぎしていた子もいました。つぎつぎにバッタやトンボが現れるので、子供たちは虫とりに忙しく、虫かご運びは二の次となり、結局スタッフや父兄が持ち運ぶハメになりました。

直前の下見ではいっぱいいたバッタやトンボ、蝶も、虫取りが終わる頃にはみんな姿を消してしまいました。賢くてすばやい動きをした虫は子供たちの手の届かないところにうまく避難したようですが、虫かごにはいろいろな虫が捕まっていました。

主な獲物は、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、クルマバッタモドキ、オンブバッタ、マダラバッタなどバッタ類が中心でしたが、発見の困難なキリギリスも3匹捕まっていました。運動場ではウスバキトンボが10匹ほど舞っていましたが、一匹残らず虫かこの中に納まっていました。

第2部のせみの抜け殻調べでは、各班100匹くらいの抜け殻を相手に奮闘し、スタッフから殻の大きさ、出べその有無、泥の有無などから判別する方法を習って、アブラゼミ、クマゼミ、ニイニイゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシと仕分けていました。次の工程のメス、オスの区別は、当初は区別点がなかなか分からなくてうろうろしていましたが、ポイントが分かると、虫めがねなどを使わずに「これはオス！　これはメス！」とすばやく仕分けていました。スタッフ残念ながら　虫めがねにたよっていましたが。

ならやまプロジェクト・レポート　23年9月

８月２５日（木）曇り／雨　参加者２４名

里山グループは彩りの森３号地の障害樹木伐採、椎茸ほだぎ天地返し。新駐車場の整備（継続）。
農園グループはナス、南瓜、冬瓜、ゴーヤの収穫およびサツマイモ畑の草取り。
景観グループはビオトープ排水溝の修理、桜、楓の植栽位置の表示作業を実施。

８月２８日（日）　晴れ　参加者２４＋２３名

奈良県「山と森林野月間」協賛イベント「竹切りと自然工作」を実施。子供１７名、保護者６名の参加があり、午前中は遊びの森で午後からはバウムクーヘン焼きと竹の水鉄砲作りを楽しんでもらった。

９月１日（木）雨／曇り　参加者２８名

里山グループは彩りの森４号地の障害樹木伐採。笹薮刈取り実施。
農園グループは大根種蒔き、蕎麦の間引き、茄子冬瓜、シシトウ、ピーマンの収穫。
景観グループはＣ地区の楓植樹位置の杭打ち、水路整備、生物調査を実施した。

９月８日（木）　晴れ　参加者４３名

午前中、全員で笹薮刈取りおよび投棄ゴミの撤去。ならやまＰＬに取り組んであしかけ５年、ようやく念願の笹薮の撤去が完了し、すっきりした笹薮跡を見て、思わず関係者万歳三唱した。
（不法投棄ゴミの多かったこと！）

里山グループは彩りの森４号地の障害木伐採。

農園グループは大蒜の植付け、大根（ＹＲ鞍馬、紅心＆辛味）の種蒔き。景観グループは水路整備、アオミドロの除去、ジャーマンアイリスの移植と草取りをそれぞれ実施した。

９月１３日（火）　晴れ　参加者５＋３名

シニア自然大学校水生生物科からビオトープ調査に３名来訪。

９月１５日（木）　晴れ　参加者３７名

本日は臨時活動日に変更。彩りの森４号地の障害樹木伐採完了。
秋野菜種蒔き、ジャガイモ植付け、茄子、シシトウ、ピーマン、冬瓜の収穫等、作業がはかどった。

９月１７日（土）　曇り／雨　参加者１７＋３名

本日は教育実習生３名、１０月１５日（土）公開イベント「芋ほり大会」に備え、竹ポット工作用の竹の伐採と下拵えをした。新駐車場の整備は本日完了。秋野菜（大根、蕪）の手入れを実施。雨天のため、活動は１２時で終了した。（藤田　記）

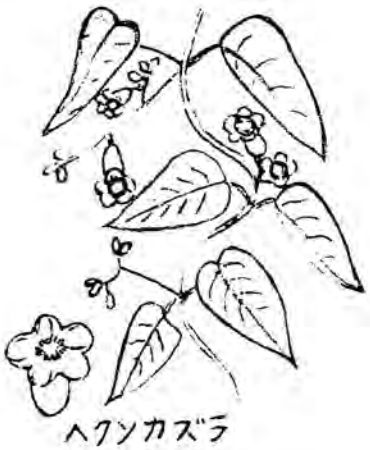
ならやま里山林自然観察レポート

＊ならやま里山林花だより＊

吉村　さつき

台風も過ぎ、ならやまに被害もなくほっと一息です。
ヘクソカズラはとてもかわいい花です。
つる性の多年植物で、他物に絡みつきながら長さ１センチの白色の花をつけ、花冠の先が５浅裂し中心部は紅紫色です。
名前の由来は屁糞蔓、花や葉をもむと悪臭がするからだそうです。
なんだか名前がかわいそうな気がします。
別名のサオトメバナ（早乙女花）は花序を早乙女が用いるかんざしに見立てたそうです。
こちらの方が可愛さが増し私はぴったりすると思うのですが・・・・・

草花＊ヘクソカズラ、キツネノマゴ、ヌスビトハギ、
ヒナタノイノコズチ、ヒカゲノイノコズチ、
チジミザサ、ゲンノショウコ、ヌマトラノオ、
イヌタデ、ヒメムカシヨモギ、ヒヨドリバナ、
ミズヒキ、ギンミズヒキ、キンミズヒキ、
アキノタムラソウ



花壇＊ケイトウ、千日紅、ニラ、ハナショウガ
ツルボ、サンジソウ、ガガイモ、コスモス

草や木の実＊スズメウリ、カラスウリ、
コムラサキ、シロシキブ、ウスノキ（赤）、ナツハゼ

＊ならやま鳥だより＊

小田　久美子

９月１２日。菊川さんと廻りました。　６種　21羽。
鳥は少なく昆虫観察になりました。特にヒグラシのラメ入りの羽には感動しました。

“満開”のそば畑（ならやま）

＜癒しの散歩道＞

いつの日か

谷川　雅邦

一　いつの日かまだあどけない子供の頃の私に出会える事が出来たなら
　見渡す限り拡がる自然の豊かさが眼に眩しかったに違いない
無知や偏見から解き放たれきっとその尊さに素直な自分に戻るだろう

二　いつの日か昔なつかしい子供の頃の自然に出会える事が出来たなら
　生きる喜びと拡がる心の豊さが身体にあふれれ出たに違いない
人は飢えや争いに苦しまないできっと世界に愛と平和を届けるだろう

三　いつの日か蘇る子供の頃の自然の美しさに出会える事が出来たなら
　明日の夢を失くした枯れ葉ではなく色ずく豊な景色に違いない
人々は互いに手を取り合ってきっと心豊かな街で仲良く暮らすだろう

オリンピックの跳躍競技ならチャンピオン

—やさしい昆虫講座（第12話）—

木村　裕

秋の虫というと、バッタ、コオロギ、キリギリスを思い浮かべられることとでしょう。今回はバッタを取り上げたいと思いますが、バッタとコオロギ、キリギリス類の区別はつきますか？よい声で鳴くのは後者で、そのような隠し芸ができないのがバッタです。もう一つの違いはひげ（触角）にあります。チョビひげはバッタ、糸状にながいのがコオロギ、キリギリス類です。

バッタの横綱は**ショウリョウバッタ**です。メスでは長さが8 cm前後もありますが、オスでは5 cm前後です。イネ科の雑草が生い茂っている草むらに住み、人が近づくと慌てふためいて飛び立ちます。オスは飛ぶときに前後の羽根をすり合わせて「キチキチキチ・・・」と音をたてることから、キチキチバッタと呼ばれることもあります。体色は、緑色または黄褐色が主体ですが、白い縦縞のある個体もありますがみんな同じ仲間です。

長さではショウリョウバッタには負けますが体つきががっちりとした貫禄のあるのが**トノサマバッタ**です。長さは5~6 cmで、体色は緑色から褐色までいろいろのタイプがあります。荒地の草むらに住み、主としてイネ科の植物の葉を食べています。日本ではおとなしくしていますが、アフリカでは空を覆うほどの大群となって農作物を襲い、テレビのドキュメンタリ番組の主役ともなっています。しかし、日本でも何度か大発生しています。その事例の一つが、関西空港が開港した頃で滑走路脇の草むらで大発生し、新聞にも取り上げられたことがあります。この虫が大発生するためには、適度の草と何も生えていない裸地が必要です。空港は新たに造成された土地のために広い裸地が多かったこと、餌となる芝地が多かったこと、バッタを食べる天敵がいなかったことが重なって大発生につながりました。しかし、芝地が広がり産卵適地がなくなったことにより2年ほどで治まりました。

農家のかたにおなじみは**イナゴ**です。稲を食い荒らす害虫で、昔はいっぱいいて、大きな被害を与えていました。また、焼いたり、佃煮にしたりして食べた方もいました。その後農薬の普及とともに減少し、ほとんど姿が見られなくなりましたが、近年農薬の使用が抑えられたことにより、また増加の傾向にあります。

家庭園芸家にお馴染みは**オンブバッタ**です。大きなバッタ（メス）が背中に小さなバッタ（オス）を乗せてピョンピョン跳んでいます。庭の草花を好き嫌いなく食い荒らすので嫌われ者です。

もっとも小さいのが**ヒシバッタ**です。長さは1 cm前後、体形がひし形で、草むらでピョンピョン飛び跳ねています。

バッタは羽根でも飛びますが、後ろ足が太く、強くなっていて飛び跳ねることが出来ます。ひと跳びで2 mほどですが、人間に換算すると60 m位になります。ロンドンオリンピックにエントリしています。

草むらでよく見られる土色のバッタ類は、マダラバッタ、クルマバッタ、クルマバッタモドキ、イボバッタなどです。湿ったところでよく見られる羽根の短いバッタはフキバッタです。

自然をちょっぴり いただきま～す

西谷範子

秋はまた豊富な山菜料理の季節です。春と違っていろいろな実りがあり、料理に果実酒に忙しくなります。このコーナーではできるだけ、ならやまフィールドや身近な所で入手できるものを取り上げています。

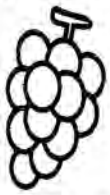
みずみずしいアオミズは、茎の硬い所を除けば全草おひたしなどにできます。少し湿った所や水辺に生えていて、さっと茹でて水にとれば、それほどアクもなくおいしいものです。

ミゾソバの新芽もやわらかい所を摘んで、同じようにできます。
また、ミゾソバやイヌタデ、ハギの花はままごと遊びにも登場するきれいな色をしています。花だけしごいて、さっと茹がき、甘酢に漬けておきます。ご飯の上にしぼった花をぱらぱらとふってアカマンマご飯にしたり、サラダのトッピングにもいかが？

秋の野趣のあるご飯というと、やはりヤマノイモのムカゴご飯でしょう。ハイキングの折に蔓から採って、そのまま食べるとあのシャキシャキした歯ごたえと山の香りがなんともいえません。これは畑で栽培されているヤマイモのムカゴとは一味違います。
でも、自然のものでなくても入手できたら、塩茹でして炊きたてご飯に混ぜます。
生のままお米に混ぜて炊くと、一層ムカゴの香りがご飯に移り、とても野趣がありますが、夜炊いて朝になると、ムカゴからアクが出てご飯全体が黄色になります。一度に食べ切る量がいいですね。

アケビがあちこちで熟れてきます。どうして食べるの？とよく聞かれます。中の種の部分を白いワタと一緒に口に含んで甘い汁を吸い、種をぱっと吐き出します。この種を土に植えると１００％芽を出しますのでえらい事になります。皮が硬くなっていない若い実の皮を２ｃｍぐらいの短冊に切り天ぷらに揚げます。苦味が抜けて思わぬご馳走になります。でも入手して一日たつと変色してきますから、新鮮な内にどうぞ。

クズやモクセイなど芳香のあるものは、花だけホワイトリカーに漬けて果実酒ならぬ花酒を作るのもよいでしょう。味に深味はありませんから、砂糖など入れてください。但し、花をたくさん入れ過ぎない事。私は以前、月下美人酒を作ったのですが、花を３こも入れたのでその香りがきつく、飲めませんでした。



クサボケ、ナツメ、カリン、マタタビ、ヤマボウシ、アキグミ、ガマズミ、ナツハゼ、ズミ、ヤマブドウなど、きれいな色のものや、芳醇な味の果実酒の材料がいっぱいです。

東北ではウワバミソウ（ミズ）を刈り取り、塩漬けにして冬の青菜不足を補いました。関西ではあまり大きなものはありませんが、東北の方では７～８０ｃｍ近くになるものが群生します。鎌で刈り取って柴のように束ねて背負子で背負って帰るのを見ました。特に秋はあの節のところにできるこぶ（むかご）を集めて食べると、独特のこりこりした食感が絶品です。

今年はブナの実の生り年です。どこのブナもたくさんの実をたわわにつけていますから、遭遇したらぜひ食べてみて下さい。今年は熊もほくほく顔でしょう。

自然俳句欄

くちなしや酔えとごとくに香を放つ　桜木　晴代

散歩みちくちなしの香が呼びとめる　〃

雨上がりの早朝でしょうか。生活習慣の散歩道。くちなしの芳香に暫し佇む。
二句目。口語調に優しさと柔らかさを表現する。

昼の虫佐保奈良坂といふ田舎　川井　秀夫

里山は法師蝉へと移りゐし　〃

里山の風の軽さを赤とんぼ　〃

里山に秋が来た。虫が集き、赤トンボが色を染め、法師蝉の声は夏の挽歌とも。

木登りの子秋の樹香を感じをり　川井　秀夫

8.28日、森のエベント。子供らと「遊びの広場」に遊ぶ。非日常の世界に嬉々とした表情。ひととき、森の空間に歓声が響く。

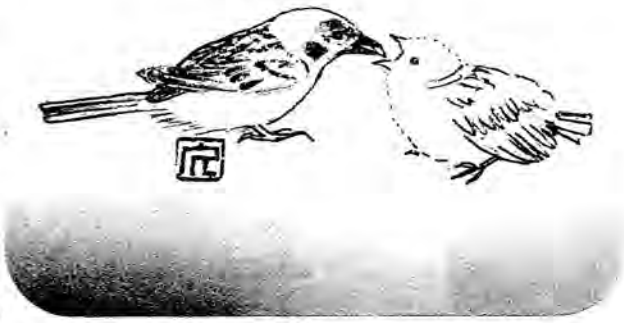
地の洞に秋の蜂をり地下酒場　川井　秀夫

道路脇のクヌギの根方にスズメバチ。直ちに殺虫剤と土嚢で塞ぐ。
間もなく地下酒場は閉店となりました。

とりシリーズ

地味だけど・・　スズメ

小田　久美子



体重24gの小さい鳥は、2500年前稲作と共に北上し勢力を拡大して来ました。稲の敵として追われたりしながらも「舌きり雀」の主人公になったり、人に依存しながら仲良く(?)暮らしてきました。　かつては何処にでも当たり前に見られた鳥でしたが今は受難の時です。都内の中学校校内での40年間の観察(1965年→2002年)では230羽→0羽という記録があります。私も、最近ヒナを一羽しか連れていない目撃が多いなと思っていました。三上(岩手医大)助教やバードリサーチなどが全国の愛鳥家に依頼して、一つがいが何羽のヒナを連れているかの調査を行なったところ、農地では辛うじて2羽強、商業地で2羽弱と小子化が見られるという結果になったそうです。繁殖環境の悪化が少子化の原因ではないかと予想、今後も継続していきたいとありました(昨年秋の毎日掲載)。　原因には建築様式の変化(瓦屋根・戸袋)、素材調達・採餌が遠いこと、天敵カラスの脅威があるように思われます。でも、コンクリート壁の水抜き穴や看板の裏、交差点の信号機・電柱に住まいを求め、餌場はコンビニの誘蛾灯・人が落とした菓子やパン屑など、彼らにも苦肉の対策があるようです。ならやまでも何故か耕作地エリアではあまり見られないスズメですが皆さんの周りでの変化はどうでしょうか。

ちいきじょうほう

★（橿原）８月１２日ホトトギス暑さのせいか去年より４日はやく鳴き納め。

27日　キジ（♂）御所の畑のブドウ畑よりあわてて声も出さず飛び出る。うちのブドウは下のほうにもぶらさがっている。丁度顔の高さのを食べていたのかな？こっちもびっくり。

9月10日　畑（橿原）で朝10時ごろ突然　ミーンミーン　ミンミン。何年ぶりかな。橿原で聴くのは。その日に聴いただけだった。

15日　明日香祝戸でどっさり成ったエゴの実をヤマガラ達が忙しげ啄ばんでいた。近くでコサメビタキがかわいい姿をみせてくれた。

情報とは言えないけれど面白い話。今年うちのトウモロコシは40本のうち半分以上イタチに食べられてしまいました。カラスよけの為周囲をすっかり網で覆ったのになんと網をくぐって下からもぐりこんだみたい。中でも食べて　お持ち帰りが外にもあってその皮のむき方が笑える。人のようにあの皮をペロリとむけず縦に細くさいて丁寧に一枚一枚上から下

までむいていた。イタチがあの手で神妙な顔して皮をむいてるのを想像しただけでおかしくないですか？それとも歯でむいたのか・・・・どっちかな？手の方が笑えるけど。持ち帰るのも重くて１～2本落としていったり・・・腹もたったけど面白い出来事。

カエルが畑に三種類トノサマガエル　ツチガエル　アマガエル（緑色ですがこの名前いいですか？）　畑の雨水貯めの３ッのペールに夏中　今もオタマジャクシが５匹ずつくらいで15匹。ドジなオタマジャクシもいてジョウロにペールの水をいれるときいつもジョウロに入る思わず「オイオイ」この３種類のカエル達の子かな？ボウフラ食べて元気にすくすくと育っている・私がいくとトノサマガエルがいつもでてきてお互い「おはよう！」楽しい畑です。　（斎藤）

★（斑鳩）１５日平城旧跡にてかわいい鳴き声が？？そおーっと近づくと声の主はモズでした。こわそうな顔でかわいい小鳥の鳴きまね！！秋には他の小鳥をおびき寄せたり、排除したりするために鳴きまねをするようです。

（勝田）

行　事　案　内

※原則：前日午後7時前のNHK天気予報で、降水確率（午前）60%以上の場合は中止

※当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません

『ならやま里山林プロジェクト１０月・１１月の予定』

場所：　奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR平城山駅下車徒歩１０分）
　—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—

日時：　１０月　６日（木）　活動日
　１０月　８日（土）　会員　芋ほり大会
　１０月１３日（木）　臨時山の日
　１０月１５日（土）　公開芋ほり大会（予備日１０月２２日）（教育実習生受入）
　１０月２０日（木）　活動日
　１０月２７日（木）　活動日
　１０月３１日（月）　雨天予備日
　１１月　３日（木）　活動日
　１１月１０日（木）　活動日
　１１月１７日（木）　臨時山の日
　１１月１９日（土）　活動日（佐保自然の森植樹祭）（教育実習生受入れ）
　１１月２４日（木）　活動日（新蕎麦まつり）

集合　現地ベースキャンプ地　9時　　終了予定　3時

交通　①近鉄奈良駅　　バス１３乗場８：２３発　高の原行　（平日・土曜）

②近鉄高の原駅　バス１番乗場８：３２発　JR奈良行（平日）

８：３０発　JR奈良行（土曜）

①、②とも佐保台西口、または平城大橋で下車　徒歩約７分

携行品など

・弁当、飲み物、軍手、(作業用具は現地で用意)、暑さ対策にご留意ください。

＊環境保護のため、コップ・箸・椀などは各自でご持参下さい。

活動内容

・里山整備、環境整備、花木植栽等の景観形成、植生調査、椎茸作り

・復元した田畑での「旬の野菜・健康野菜の有機栽培」、堆肥作り、土作り

・「市街地にある里山」を体験する各種イベント、学校授業「田圃の教室」

・広域里山パトロール（保全、ナラ枯れ点検、生物調査など）

★ならやま・バードウォッチング

☆日　　時：10月10日(月)　9:00集合

★集合場所：ならやま駐車場

☆小雨決行：判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。

創立１０周年記念「木曽路一泊研修会」参加申し込み受け付けます！！

木曽路一泊研修会参加申し込みは９月２０日に締切りましたが、定員にまだ余裕がありますのでご遠慮なく申し込み下さい。

1.日　時　　10月17日（月）～　18日（火）　　雨天決行

2.行き先　　木曽福島　（第一日「赤沢自然休養林」、第二日「開田高原」）

3.宿泊先　　木曽駒高原ホテル　（長野県木曽郡木曽町新開　　0264－23－7221）

4.会　費　　２２，０００円　（宿泊費一泊二食、バス料金、昼食を除く飲食費など）

5.集　合　　近鉄高の原駅　西口　ロータリー前　AM　8：00（時間厳守）

＊参加申込み先　　寺田　孝

<11 月の予定>

オプション行事東海道自然歩道「曽爾高原編」

曽爾高原といえば・・・　すすき！秋と言えば・・曽爾高原すすきです！！！
秋期の期間のみ運転される、曽爾高原駅までバスで登ります。時間はたっぷり、ススキと湿原植物を堪能して下さい。

日　時：　１１月１２日（土）
集　合：　近鉄　名張駅前　西口　三重交通バス乗り場　９時２０分
　　バス：曽爾高原行き　９時３５分発　　曽爾高原１０時２２分着　　（８１０円）
担　当：
＊詳細は会報第 118 号（11 月号）でお知らせします。

１１月例会のお知らせ

１１月は京都植物園のたくさんのカエデの見事な紅葉を見に行きます。
また園内の秋の植物を、ここをホームグラウンドとして学習している
「京とおうみの会」の方にガイドしていただきます。
皆様の参加をお待ちしています。
　日　時：　１１月２２日（火）少雨決行
　詳細は１１月号に掲載します。
　　担当：平岡久美
　　西谷範子

<12 月の予定>

<１２月例会と忘年会>

予定に
入れておいてね！！

★12 月例会「頭塔と高円山の紅葉を訪ねる」
　日　　時：１２月５日（月）　９時３０分集合
　集合場所：近鉄奈良駅前行基菩薩前
　担　　当
★忘年会
　日　　時：１２月５日（月）　１６時より
　場　　所：万葉荘
　会　　費：5000 円
　担　　当：寺田孝
＊いずれも詳細は会報第 118 号（11 月号）でお知らせします。

平成２３年９月度幹事会報告

日　時：平成２３年９月６日（火）　17：15～20：10

場　所：中部公民館

出席者：幹事１７名　顧問１名

(1) ８月末会員数　１２２名

(2)「佐保自然の森」で１１月１９日に植樹祭を実施する。地元の自治会の方々などを招待して、近隣の人たちに愛される森とすることが目的。

(3) ならやまフイールドのビオトープに絶滅危惧種「ニッポンバラタナゴ」の飼育の可否について議論する。結論保留。

(4) 主にイベントや出展時に使うスタッフシャツを作る。費用は会と個人で折半し、個人管理とする。

(5) １０周年記念木曽路研修旅行参加者９月８日現在３２名。引き続き参加者を募る。

表紙のペン画によせて

境　寛

この度、公益社団法人国土緑化推進機構より、平成２３年度ふれあいの森林づくり優良市町村・団体として「国土緑化推進機構会長賞」に奈良・人と自然の会が選ばれました。今回の全国育樹祭（１１月平城京跡）にて表彰されるとのニュース、おめでとうございます。平城京でふと思い出しましたのが、平城遷都１３００年祭で大変にぎわった平城京大極殿でした。季節感があまりありませんが、最近、平日は人もまばらでだいぶ静かになっています。

１１月にはここで、表彰されると聞いて、この絵を出してきました。

編集後記：＊今年は地震・噴火・台風と日本全国で気の休まる時がありません。特にのろのろ台風１２号は紀伊半島（奈良県も）をこれでもかと痛めつけました。１５号も追い打ちを掛け、どこもここもずたずたになっています。でも、こんな時こそ明るい話題を探し、当会の行事などに参加し、みんなと笑い、話をして力を蓄えて行きたいですね。

＊会報発送作業・編集会議日：**11月号の作業は１０月２６日（水）**午前９時から「西奈良ボランティアセンター」で行います。毎回多くの会員の方々のご協力をいただいております。今回もよろしくお願いいたします。

編集担当：勝田　　均

TEL＆FAX

奈良・人と自然の会

いもほり大会

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

日時　：　10月8日(土)　10時　集合

場所　：　ならやま　ベース・キャンプ

対象　：　奈良・人と自然の会　会員とその家族

参加費　：　　一家族　300円

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ごあいさつ

「奈良・人と自然の会」が、ならやま里山林整備事業（ならやまプロジェクト）に取り組んでからはや5年目となりました。

この間、メンバーの皆様の努力のお陰で、ならやまの景観は見違えるように整備されて参りました。プロジェクトの参加者は、イベントも含めると年間延べ2500人が見込まれ、地域の皆様、行政当局、学校関係など各方面から高い評価を頂いております。これはひとえに会員各位のご理解とご協力の賜物とあつくお礼申し上げます。

さて、ならやまの畑では、今年もサツマイモの収穫の時期を迎えます。気候不順の影響が心配されますが、関係者の努力のお陰で何とかそこそこの収穫を期待できそうです。

つきましては、恒例の「会員と家族のいもほり大会」を下記の要領で開催いたしますので、ご家族、お孫たちともども、芋掘り、栗拾いなど里山の秋をお楽しみくださいますようご案内申し上げます。

奈良・人と自然の会　　会長　阿部　和生

携行品：　軍手、スコップ、ビニール袋、弁当、飲み物

交通機関　バス：近鉄奈良駅発　高の原行　9：23発　13番乗り場
近鉄高の原発　JR奈良駅行　9：35発　1番乗り場
（どちらも平城大橋　または佐保台西口下車　徒歩7分）
JR：平城山駅より徒歩10分

雨天について：　前日の午後7時前のNHK天気予報で午前の降水確率60%以上の場合は中止します